

タバコ

タバコが原因による火災の多くは、喫煙をする方の火気管理がしっかりしていなかった場合や不注意などにより起きています。

注意するポイント

- 寝タバコは、絶対にやめましょう。また、飲酒酩酊状態での喫煙も大変危険です。
- たばこは、必ず灰皿のある場所で吸い、くわえタバコで歩き回るのはやめましょう。
- 吸い殻は、くずかごには捨てずに、水をかけてから生ゴミ等と一緒に捨てましょう。
- 灰皿は、ふちが大きく深めのものでいつも水を入れておきましょう。また置く位置を決め、その周りを常に整理整頓しておきましょう。



コンロ

住宅内の火災の多くはコンロによるもので、中でも最も多いのは天ぷら油火災です。また出火原因では、「揚げものをしていたときに、電話や来客に対応し、火を消さずにその場を離れたため、天ぷら油が過熱されて出火した。」というものが大部分を占めています。

注意するポイント

- コンロを離れる時は必ず火を消す。
- コンロの周りや上方には燃えやすい物を置かない。
- コンロを使うときは袖口や裾などに気をつけ、引火しやすい化繊や広がったデザインの衣服は避ける。
- 魚などを焼くグリル部分は、グリル内部の炎が見えにくいため、消し忘れに注意する。
- カセットコンロを使用する場合は、カセットボンベの接着方法を始め製品に書かれた注意書きをしっかりと守る。



電気器具・コード

家庭での電気に関連した出火原因は、コードの断線、タコ足配線、トラッキング現象などによる発熱です。

注意するポイント

- コートの上に重い物をのせない。
- コンセントに差したままのプラグにほこりをためない。
- タコ足配線をしない。
- 延長コードは、電気容量に合ったものを使用する。
- 電気ストーブやドライヤーなど熱を出す器具は、使い終わったらコンセントから抜く。



ストーブ

ストーブは、居室内で直接炎が出たり、表面が高温になるため、ちょっとした不注意が火災につながります。

注意するポイント

- ストーブの上や周りに可燃物を近づけない。特に、ストーブの近くで洗濯物を干さない。
- 石油ストーブは完全に火が消えてから給油する。
- 部屋に誰もいないときは、ストーブを必ず消す。
- ストーブの周りにスプレー缶などの危険物などを置かない。



火遊び

火遊びを絶対にさせないため、小さな子供たちには、火の大切さと火の恐ろしさなど、正しい知識を教えましょう。

注意するポイント

- 子供の手の届くところにマッチやライターを置かない。
- 小さな子供だけを残して外出はしない。
- 子供だけで花火はさせない。



万一火災がおきたら

火災を見つけたとき、まず必要なことに「119番通報・初期消火・避難」がありますが、これらの優先順位は火災によって違ってきます。

◆例：一人でいるときに火災になったら、「火事だ！」と大きな声で叫び、

・初期消火ができると判断した場合

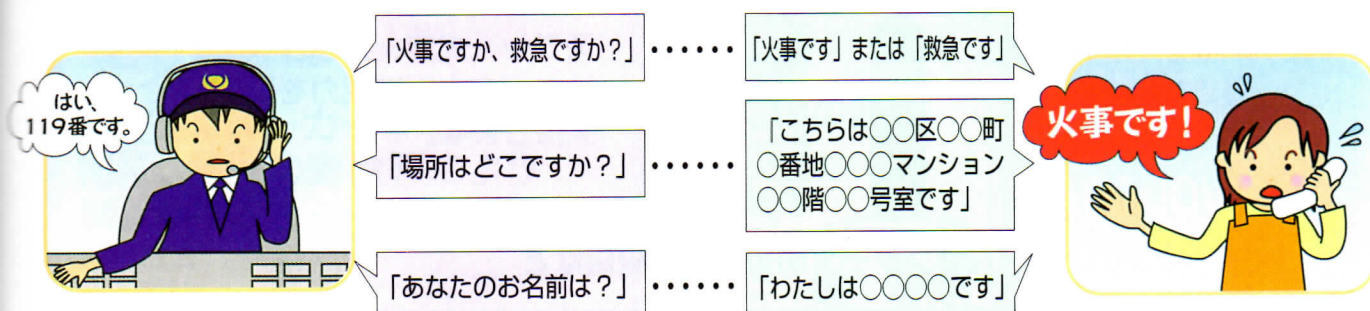
→ 初期消火 → 119番通報

・初期消火ができないと判断した場合

→ すぐに避難 → 119番通報



119番通報



■119番通報は、慌てず落ち着いて通報することが大切です。

119番通報は、スムーズに伝えることにより火災の被害を小さくすることができます。

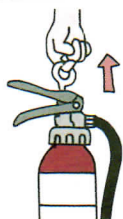
■慌てず119番通報ができるように電話機の周りに住所などをかいたメモを貼っておきましょう。

初期消火

初期消火の限界は、一般的に「天井に炎がとどくまで」と言われています。わずかな時間ですが、この間に消火できれば火災を食い止めることができます。

消火器の使い方

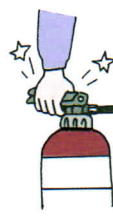
1 安全栓をひき抜く。



2 ホースをはずし、ノズルを火元に向ける。



3 レバーを強く握る。



避難

初期消火ができなかったら、無理をしないですぐに避難してください。避難のタイミングを逃すと、命にかかわることにもなりかねません。

安全に避難するために

- 一度避難したら、絶対に家のなかに戻らないでください。
- 服装や持ち物にこだわらず、できるだけ早く安全な場所へ避難してください。

〈火より恐ろしい煙〉

建物火災で死に至った経過を見ると、火傷による死者より、一酸化炭素中毒などによる死者の方が多くなっています。避難するときは、姿勢を低くし、ハンカチやタオルを鼻と口にあて一刻も早く煙から逃れることが大切です。※煙は階段などの縦方向に一気に広がっていきます。